

平成 25 年 11 月 25 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 U M N フ ァ ー マ  
代 表 社 名 代 表 取 締 役 会 長 兼 社 長 平 野 達 義  
(コード番号: 4 5 8 5 東証マザーズ)  
問 合 せ 先 取 締 役 財 務 部 長 橋 本 裕 之  
電 話 0 4 5 - 2 6 3 - 9 2 0 0

### 国立感染症研究所からのワクチン候補抗原製造受託のお知らせ

当社は、この度、国立感染症研究所（所長：渡邊治雄）から、複数の新規ワクチン候補抗原製造を受託しましたのでお知らせします。

本件に係る業績への影響

本契約締結による平成 25 年 12 月期業績予想の変更はありません。

詳細は、添付別紙をご覧ください。

以上



平成 25 年 11 月 25 日

各 位

株式会社 UMN ファーマ

## 国立感染症研究所からのワクチン候補抗原製造受託のお知らせ

当社は、この度、国立感染症研究所（所長：渡邊治雄）から、複数の新規ワクチン候補抗原製造を受託しましたのでお知らせします。これらワクチン抗原は、当社の製造技術プラットフォーム Baculovirus Expression Vector System<sup>1)</sup>（以下「BEVS」）を用いて製造します。

国立感染症研究所は、感染症対策に関わる基礎、応用研究に力を注ぎ、抗生物質やワクチン等の開発とそれらの品質管理に指導的役割を果たす厚生労働省の附属試験研究機関で、日本における感染症対策の中核を担っています。

当社はこれまで、BEVS を用いて組換えインフルエンザ HA ワクチン UMN-0502、UMN-0501、UMN-0901 や組換えノロウイルス VLP + ロタウイルス VP6 混合ワクチン UMN-2003 の製造プロセス開発を行ってきました。今般の国立感染症研究所からの新規ワクチン候補抗原製造受託は、当社がこれまでに蓄積した BEVS によるワクチン抗原製造に関する知見の応用展開可能性を示すものであります。今後、国立感染症研究所からの新規ワクチン候補抗原の製造受託を通じて、新たなワクチンの開発に携わることで、国民一人ひとりの健康を守ることに貢献できるものと期待しています。

以上

### 1) Baculovirus Expression Vector System (BEVS)

BEVS とは、バキュロウイルスに目的遺伝子を組み込んだ後、昆虫細胞に感染させて目的タンパクを製造する系で、組み込む遺伝子の種類が変わっても生産条件を大きく変える必要がない、柔軟で効率的な製造技術であり、短期間に、大量に、安全に製造することができることに特徴があります。当社が開発を行っている UMN-0502・UMN-0501・UMN-0901 は、組換え HA タンパクを有効成分とするインフルエンザワクチンです。標的インフルエンザウイルス HA タンパクの全長遺伝子を遺伝子組換え技術によってバキュロウイルスに挿入し、これを株化した昆虫細胞に感染させ、細胞内で発現させています。

UMN-2003 も BEVS により製造したノロウイルス組換え VLP (Virus-Like Particle) とロタウイルスの組換えウイルスタンパクを有効成分とするワクチンです。VLP とは、ウイルスの外殻のみ持ち、内部にはウイルスゲノムを持たない中空のウイルス様粒子のことで、ウイルスゲノムを持たないことから宿主内で増殖できませんが、外殻に対する抗体産生を誘導します。VLP は、組換えタンパクの単一分子と比べはるかに大きく、樹状細胞やマクロファージなどの抗原提示細胞に病原体の如く貪食されやすいため、アジュバントなしで強力な免疫を誘導する抗原として期待されています。また、BEVS は、インフルエンザワクチンやノロウイルスのみならず、デング熱、西ナイル熱などの新興・再興感染症に対する組換えサブユニットワクチン、免疫反応を利用してがん細胞を攻撃・退縮させるペプチド治療用ワクチン、タンパク治療薬（非ワクチン）等に幅広く応用可能です。

〔本件に関するお問合せ先〕

株式会社 UMN ファーマ 総務部

電話：045-263-9200 FAX：045-263-9205